【1 年生】

平成 30 年度　2 年次「史学基礎演習 B・C」事前登録

史学科の学生は、1 年次後期に「史学基礎演習 A」を履修し（火曜 1 限・金曜 1 限)、さらに、2 年次前期に「史学基礎演習 B」、2 年次後期に「史学基礎演習 C」を履修して、各コースごとに、分野・時代の研究方法の基礎を広く学んでいきます。

「史学基礎演習 A・B・C」は、少人数で行われる授業であり、希望優先方式による事前登録制をとっています。下記の登録期間内に K-SMAPY 上で希望を受け付けますので、希望する授業を 4 つ入力してください。あわせて、選考の参考にするため、**現在関心を持っている研究について具体的に 200 字以上 250 字以内**で記入してください。

◆登録期間：平成 29 年 12 月 23 日(土)12：00(正午)～平成 30 年 1 月 15 日(月)12：50（厳守）
◆登録方法：K-SMAPY 上
◆登録内容：①希望する授業を 4 つ選択（※下記、注意事項を参照のこと）
②現在関心を持っている研究テーマ（200 字以上 250 字以内）
◆結果発表：2 月下旬（予定）

【登録画面上の注意事項】
- ✧ 希望科目の選択において、「第 1 希望」で選択した科目は、「第 1 希望」として扱いますが、第 2～4 希望で選択した科目の希望順位はすべて同順の「第 2 希望」として扱います。
- ✧ 上記「登録内容」の②は、「志望理由」の欄に入力してください。
- ✧ 登録期間内に事前登録を済ませなかった場合、希望通りに履修できない場合があります。
- ✧ 登録期間中、メンテナンスのため K-SMAPY を利用できない期間があります。(12/28（木）7:00 ～ 21:00)
- ✧ 日曜日、1/8（月・祝)、大学入試センター試験実施日（1/13（土)、14（日))、冬期休暇中は事務室が閉室しているので、問合せの際は注意してください。

次年度の「史学基礎演習 B・C」は、次頁以下に記される授業が開講されます。履修に際しては、下記（1）（2）の条件があります。この条件に従って履修希望を出して下さい。

（1）「史学基礎演習 B」は、現在履修している「史学基礎演習 A」と異なるコース（日本史・外国史・考古学・地域文化と景観）の授業を選択すること。

（2）「史学基礎演習 C」は、「史学基礎演習 A」または「史学基礎演習 B」で履修したコースと同一のコースを履修できる。但し、日本史コースの場合は、A または B で履修した時代と異なる時代を選択すること。

史学基礎演習 B　担当者一覧

登録番号	授業区分	氏名
7689	日本古代史①	山﨑雅稔
※休講		
7692	日本中世史①	平野明夫
7694	日本中世史②	杉山一弥
7696	日本近世史①	根岸茂夫
7698	日本近世史②	種村威史
7700	日本近現代史①	柴田紳一
7702	日本近現代史②	種稲秀司
7704	外国史学・東洋史①	江川式部
7706	外国史学・東洋史②	樋口秀実
7708	外国史学・西洋史①	古山正人
7710	外国史学・西洋史②	大久保桂子
7712	考古学①	中村耕作
7714	考古学②	深澤太郎
7716	地域文化と景観①	川名　禎
7718	地域文化と景観②	藤澤　紫

史学基礎演習 C　担当者一覧

登録番号	授業区分	氏　名
7690	日本古代史①	山﨑雅稔
7691	日本古代史②	中　大輔
7693	日本中世史①	教員未定
7695	日本中世史②	矢部健太郎
7697	日本近世史①	根岸茂夫
7699	日本近世史②	種村威史
7701	日本近現代史①	柴田紳一
7703	日本近現代史②	手塚雄太
7705	外国史学・東洋史①	江川式部
7707	外国史学・東洋史②	樋口秀実
7709	外国史学・西洋史①	古山正人
7711	外国史学・西洋史②	大久保桂子
7713	考古学①	阿部昭典
7715	考古学②	深澤太郎
7717	地域文化と景観①	吉田敏弘
7719	地域文化と景観②	林　和生

平成 30（2018）年度前期「史学基礎演習 B」

授業のテーマと内容

日本古代史①　山﨑雅稔

〔授業のテーマ〕 日本古代史の史料を読む
〔内容〕日本古代史の学ぶ上で基本になる史料を読むとともに、優れた概説書や研究論文を読みながら、歴史学的な考え方、研究の方法を学びます。
前半は、古代史の史料にはどのようなものがあって、何が書かれているのか、そして、それらの解読のために辞書・事典類をどのように使うのか、実際に史料を読みながら身につけます。後半は、日本古代の歴史をどのように構想するのか、史実や歴史像へのさまざまなアプローチの仕方、学術上の論点について、論文講読とディスカッションを通じて身につけます。授業は受講生の発表を中心に進めます。史料・論文の講読には毎回授業前の予習が不可欠です。
具体的には、六国史や説話集（今昔物語集）を読んで、奈良・平安時代の歴史を学びます。

日本中世史①　平野明夫

〔授業のテーマ〕 中世の政治・社会と文化を考える
〔内容〕 鎌倉・南北朝・室町・戦国・織豊期の日記や古文書、絵巻物、物語等を読み解きながら、史料から何が明らかになるのかを考え、史料を基に中世社会を洞察する目を養ってもらう。そのために、自分の好きな史資料を選んで各自に報告してもらうが、報告者以外も、史料をきちんと予習するとともに、それをもとに報告者との議論に参加する態度を持って出席してほしいと思う。

日本中世史②　杉山一弥

〔授業のテーマ〕 日本中世史研究の基礎をまなぶ
〔内容〕 日本中世（院政・鎌倉・南北朝・室町・戦国）における重要事項（政治、経済、法律、宗教、文化、合戦）を、一次史料の古文書・古記録から復元する技能を養う。
あわせて日本中世史研究でもとめられる思考・理論・規範の基礎をまなぶ。

日本近世史①　根岸茂夫

〔授業のテーマ〕日本近世史入門
〔内容〕これから日本近世史を学ぶための入門的な演習である。最初に江戸時代の基礎知識や基本的文献について学び、江戸時代の史料に触れる。その後江戸時代史研究の諸問題について考察する。次いで選択したテーマについて史料を見つけ、考察を加えながら研究方法を学び発表と討論を重ねる。広く江戸時代やその研究を知りたい人は履修していただきたい。

日本近世史②　種村威史

〔授業のテーマ〕日本近世史入門
〔内容〕日本近世史を学ぶための入門的演習である。まず、江戸時代の文献や史料を読む上で必要不可欠な基本的知識、次に近世史料読解の基礎的知識を学ぶ。その後、近世史の研究史をめぐる諸問題について学ぶ。その上で、受講生各自が選択したテーマについての発表と討論を行なう。日本近世史で卒論を書く希望があり、まだ近世史の演習を履修していない人はぜひ取ってもらいたい。なお、授業内容は受講生の学習進度を踏まえたものとしたい。

日本近現代史①　柴田紳一

〔授業のテーマ〕吉田茂の書翰から学ぶ日本近代史
〔内容〕戦後日本の復興に寄与した吉田茂(1878－1967)は、その長く波乱に富んだ生涯を通じて数多くの手紙を書き遺した。主に戦前期には明治・大正・昭和の外交官として、戦中期には和平工作の推進者として、戦後期には宰相および宰相たちの後見者として、である。この演習では、①〈授業の進め方〉史料を読み進めながら報告を求め、②〈授業で重視するポイント〉史料を読む力や、文章作成・発表など表現する力を身につけることを基本にし、③〈学びのポイント〉徐々にステップアップしながら(毎回出席し回を重ねる中で)考え・調べ・読み・表現し、その進行・反復の中で学生には積極的な姿勢で授業に臨み、着実に「歴史を学ぶ力」を体得してもらいたい。

日本近現代史②　種稲秀司

〔授業のテーマ〕明治・大正期の政治史史料を読む
〔内容〕史学科の学生にとって大事なことの一つは、史料が読めるようになることです。この授業ではカナ交じりの漢文に慣れ、読めるようになることを第一の目的にします。
　まずは活字化された史料を読んで、理解できるようになることが大切です。近年数多く刊行されている史料集のなかで、最初は明治・大正期の重要人物の書翰が数多く所収されている『山縣有朋関係文書』を用います。その後は習熟度や関心に応じて用いる史料を変えていくこともあります。最後に、この授業でアップしたスキルを試すためのリポートを課します。

外国史学・東洋史①　江川式部

〔授業のテーマ〕紀行文からみえる歴史―唐長安のお寺めぐり―
〔内容〕中国史の史料及びそれに関連する概説・論文を読みながら、史実の読み解き方を学習していきます。具体的には唐代長安の寺院散歩記である『寺塔記』を読みながら、そこに書かれたお寺の歴史やそこに関わった人々について考えていきます。

外国史学・東洋史②　樋口秀実

〔授業のテーマ〕広いアジアの歴史を学ぶ
〔内容〕この演習は、中国・朝鮮古代史を除いたアジア史の諸問題について勉強しようという学生を対象とします。授業の内容としては、①論文講読、②研究報告、③レポート執筆の 3 つを行ないます。①については、アジア諸国・諸地域の歴史に関する学術論文を読みます。「東洋史」というと「中国史」を連想しがちですが、この演習では、日中朝三地域を中心とする「漢字文化圏」に属さない、アジアの「横文字文化圏」の歴史に関する論文も読みます。②については、アジアの王朝や国家に関する報告をしてもらいます。③については、論文分析や報告内容に関わるレポートを数回書いてもらいます。①～③の作業を通じて、テーマを設定する、調査・分析を行なう、結論を導きだすといった論文執筆のために必要となる技術を身につけてください。なお、この授業は、皆さんの報告を中心に進められ、教員である私は、皆さんのアドヴァイザーとして脇役に徹します。授業のなかでいちばん大事すべき要素は、自分の感性にもとづき、自分の意見を自分の言葉で述べることです。うるさいくらいでかまわないので、積極的に授業に参加し、どんどん発言をしてください。

外国史学・西洋史①　古山正人

〔授業のテーマ〕西洋前近代史研究の諸問題
〔内容〕史学基礎演習 B の主眼は西洋前近代史を研究するためにはどのような方法・技術が必要であるかを理解すると同時に、西洋前近代史の基礎的知識を身につけてもらうことにある。西洋史を専攻するに至っていない者が対象であるので、基本的には日本語文献を用い、レジュメを作成してレポートしてもらう。レポートに基づいて行う質疑応答も重要である。さらに英語の基礎力を維持し高めることは現在の社会状況においてきわめて重要である。したがって、英語で書かれた本や論文を読める程度の力をつけることが各自に求められる。
必読参考文献としては『西洋古代史研究入門』(東京大学出版会)、『文献解題 ヨーロッパの成立と発展』(南窓社)、『西洋中世史研究入門』(名古屋大学出版会)を推奨する。
授業の中心は、①西洋古代史関連する邦語専門論文についての報告と議論を中心とする。②英語文献の講読も並行して進める。

外国史学・西洋史②　大久保桂子

〔授業のテーマ〕西洋近代史の学び方
〔内容〕史学科２年次前期のこの演習では、歴史学の方法に習熟するために、西洋近代史を手がかりとした学習をおこなう。具体的には、①歴史学の専門論文の読み方、②専門論文をもとにしたレポートの書き方、③口頭発表と報告用レジュメの作り方、以上技法を習得することを目的とする。担当教員の専門はイギリス近代史である。そこで西洋近世・近代史の諸テーマを手がかりに、上の作業を通じて、西洋近代史を学ぶのに必要な基礎知識を習得してもらう。高等学校までの世界史学習とは異なる西洋史学の専門的方法にもふれてもらうことにしたい。

考古学①　中村耕作

〔授業のテーマ〕発掘調査報告書を読み解く
〔内容〕受講者の関心のあるテーマ（住まい・ムラ・食料・技術・生産・交易・葬送・祭祀など）を確認した上で、事前に模範的な報告書と短い論文を提示しますので、これを含めて各自で数編の報告書・論文を読み解き、内容を発表してもらいます。

考古学②　深澤太郎

〔授業のテーマ〕考古資料論Ⅰ：編年論・分布論－遺構・遺物の「年代」と「地域性」を探る－
〔内容〕考古学研究の前提は、モノの時期的（いつの？）・空間的（どこの？）位置付けを理解することです。そこで当演習では、古墳時代以降の遺構・遺物を取り上げて、それらの編年・分布について考えていきます。具体的には、古墳の墳丘・埋葬施設や、墳丘に樹立された埴輪、副葬された鏡、装身具、鉄製武器・武具などを取り扱う予定です。ただし、初回授業時にアンケートを実施しますので、受講者の関心によっては、弥生時代や、古代・中世・近世の資料についても触れていこうと思っています。
　皆さんには、それぞれ関心のある資料について、集成作業（図書館に収蔵されている埋蔵文化財発掘調査報告書などの収集や、遺構・遺物図面の収集）に基づく自分だけの資料集作りと、その編年・分布に関する発表を行ってもらいます。なお、発表の際には、本学博物館の収蔵する実物資料も手に取りながら、資料に対する理解を深めていくことにしましょう。

地域文化と景観①　川名　禎

〔授業のテーマ〕地図・絵図で読み解く『利根川図志』の世界
〔内容〕『利根川図志』とは、医師・赤松宗旦が著した江戸時代の地誌書である。本書は、越後魚沼の雪国の生活を描いた鈴木牧之の『北越雪譜』とも比較されることが多く、当時主流であった一国ごとの地誌とは異なり、利根川という自然環境を中心に、その流域の歴史・文化・民俗等を描写したところに特徴がある。また本書は、利根川を媒介として地域と地域

とが結ばれ、あたかも「地中海世界」ならぬ「利根川世界」（利根川文化圏）が形成されていたことを窺わせるものでもある。さらに挿絵には多くの著名な絵師たちも参加している。

この演習では、地図や絵図などを使用しながら、『利根川図志』をテキストとして、受講生はそれぞれにテーマを選び、それに基づいた発表を行う。そのための文献検索の方法、論文の読み方、地図・絵図・景観の読解方法、レジュメの作成方法、口頭発表のやり方等について事前に指導を行う。本演習を通じて、「地域文化と景観コース」の学習と研究に必要なスキルを身につけたい。

地域文化と景観②　藤澤　紫

〔授業のテーマ〕「名所絵」を読む―絵画資料と文献の活用法―

〔内容〕この授業では、絵巻、屏風、版画、版本など多様な絵画や古地図などの資料、各種文献の活用法を学び、かつ、描かれた文化の読み解き方、景観表現の変遷など、文化や景観に関わる事柄について考察を深めます。毎時間、パワーポイントや DVD 等の映像機器を用い、各種資料や文献の活用法を習得すると共に、江戸時代の版本、版画、古地図、染織品に触れ、基本的な扱い方を学ぶ機会もあります。

はじめに、洛中洛外図や江戸一目図などの景観図の成立ち、画中の「場所・事・物」の抽出と読み解き、街道図や古地図と名所絵の照会、絵双六や浮世絵に見る旅情報など、複数の観点から庶民文化の諸相や江戸出版界の動向を探ります。

そのうえで、受講生各自が任意の一作品を選び、景観や祭事、芸能、服飾など、文化や景観にまつわる事柄について自由に発表する機会を設けます。文献学習はもちろん、現地に赴き絵師と同じアングルを目指して写真撮影をするなど、自身のフィールドワークの成果も積極的に生かしましょう。また発表後に、教員と受講生からのコメント（感想文）を渡しますので、今後の発表やレポート課題の設定に役立てることができます。演習を通じて、「絵を読む」こと、「文化を学ぶ」ことの双方を、楽しく学んで欲しいと思います。

平成 30（2018）年度後期「史学基礎演習 C」

授業のテーマと内容

日本古代史①　山崎雅稔

〔授業のテーマ〕日本古代史研究の基礎を学ぶ
〔内容〕日本古代史の学ぶ上で基本になる史料を読むとともに、優れた概説書や研究論文を読みながら、歴史学的な考え方、研究の方法を学びます。
前半は、古代史の史料にはどのようなものがあって、何が書かれているのか、そして、それらの解読のために辞書・事典類をどのように使うのか、実際に史料を読みながら身につけます。後半は、日本古代の歴史をどのように構想するのか、史実や歴史像へのさまざまなアプローチの仕方、学術上の論点について、論文講読とディスカッションを通じて身につけます。授業は受講生の発表を中心に進めます。史料・論文の講読には毎回授業前の予習が不可欠です。
具体的には、六国史の後半や法令集（類聚三代格）・説話集（今昔物語集）・貴族の日記を読んで、平安時代の歴史を学びます。関連する出土文字資料（木簡）なども取り上げます。

日本古代史②　中　大輔

〔授業のテーマ〕日本古代史研究の基礎を学ぶ
〔内容〕日本古代史を学ぶ上で基本になる史料を読むとともに、優れた概説書や研究論文を読みながら、歴史学的な考え方、研究の方法を学ぶ。
前半は、古代史の史料にはどのようなものがあり、何が書かれているのか、そして、それらの解読のために辞書・事典類をどのように駆使するのか、実際に史料を読みながら身につける。後半は、日本古代の歴史をどのように構想するのか、史実や歴史像へのさまざまなアプローチの仕方、学術上の論点について、論文講読とディスカッションを通じて身につける。授業は受講生の発表を中心に進める。史料・論文の講読には毎回授業前の予習が不可欠となる。
具体的には、六国史（日本書紀・続日本紀）や法令（律令）・地誌（風土記）などを読み、飛鳥・奈良時代の歴史を学ぶ。関連する出土文字資料（木簡）や金石文なども取り上げつつ、必要に応じて古代遺跡・出土遺物も紹介する。

日本中世史①　教員未定

〔授業のテーマ〕中世の政治・社会と文化を考える
〔内容〕平成 30 年度は、新任の専任教員が担当します。日本の中世前期、つまり、鎌倉・南北朝・室町時代の日記や古文書、絵巻物、物語等を読みつつ、中世前期の日本を考えていきます。具体的には、自分の好きな史資料を選んで報告してもらいますが、報告者以外も、

史料をきちんと予習するとともに、それをもとに報告者との議論に参加する態度を持って出席してほしいと思います。卒業論文で日本の中世前期をテーマとしたい学生は、積極的に受講してください。

日本中世史②　矢部健太郎

〔授業のテーマ〕室町・戦国・織豊期の古文書
１・２年次の基礎的な演習で得た様々な知識をもとに、室町～織豊期に時期を限定して史料読解の演習を行う。対象とする素材は、主に武家社会においてやり取りされた古文書とする予定である。ただし、中世社会の復元のためには、多種多様な史料に関する理解が必要である。よって、公家衆や寺社が書き残した古記録などの史料の扱い方に関しても、十分に時間を割いて取り組んでいきたい。

日本近世史①　根岸茂夫

〔授業のテーマ〕日本近世史研究入門
〔内容〕これから日本近世史を学ぶための入門的な演習である。最初に江戸時代の基礎知識や基本的文献について学び、江戸時代の史料に触れる。その後江戸時代史研究の諸問題について考察する。次いで選択したテーマについて史料を見つけ、考察を加えながら研究方法を学び発表と討論を重ねる。日本近世史を専攻したい人に履修していただきたい。

日本近世史②　種村威史

〔授業のテーマ〕日本近世史入門
〔内容〕日本近世史を学ぶため入門的演習である。まず、近世史を学ぶ上での基本的知識を学ぶ、次に近世文書の解読のための基礎的技術を学ぶ。その後、近世史研究をめぐる諸問題について学ぶ。その上で、受講生各自が選択した論文についての発表と討論を行なう。なお、日本近世史で卒論を書く希望があり、まだ近世史の演習を履修していない人は、ぜひ取ってもらいたい。なお、授業内容は受講生の学習進度を踏まえたものとしたい。

日本近現代史①　柴田紳一

〔授業のテーマ〕本学図書館の貴重書に学ぶ日本近代史
〔内容〕本学図書館には寄贈・購入などによって収められたさまざまな貴重書(書籍や史資料など)が多数所蔵されている。その中には日本近代史に関わる重要なものが多数含まれている。身近にありながら日頃なかなか学生が目にすることができないものがほとんどである。この演習では、①〈授業の進め方〉史料を読み進めながら報告を求め、②〈授業で重視するポイント〉史料を読む力や、文章作成・発表など表現する力を身につけることを基本にし、③〈学びのポイント〉徐々にステップアップしながら(毎回出席し回を重ねる中で)考え・

調べ・読み・表現する、その進行・反復の中で学生には積極的な姿勢で授業に臨み、着実に「歴史を学ぶ力」を体得してもらいたい。

日本近現代史②　手塚雄太

〔授業のテーマ〕日本近現代史の史料と論文を読む

〔内容〕この演習では、第一に日本近現代史の基礎を学ぶこと、第二に理解したこと、学んだことをみんなが理解できるような形で発表することを課題とする。

前半では、日記、書簡、新聞、雑誌、公文書など、こちらで用意した様々な近現代史に関わる史料について、その内容・背景などを調べて報告する。報告や質疑を通じて、それぞれの史料が持つ特徴を学ぶことで、近現代史の基礎を学ぶとともに、3年生からの卒業論文に関わる演習を選択するための判断材料の一助として欲しい。

後半では、論文を読んでまとめ、発表することを中心にする。読むべき論文は講座や通史の一部、あるいは学術雑誌の論文をこちらで指定する。１コマに２人の発表者を指定し、１つの論文を２人で報告するという形をとり、発表者はＡ３もしくはＢ４用紙２枚以内に論文要旨をまとめる。人数にもよるが、それが一巡した場合は、学術雑誌から参加者の希望する論文を選択し、それを発表することとする。なお、読んだ史料もしくは論文に関わるレポートも課す予定である。

外国史学・東洋史①　江川式部

〔授業のテーマ〕法律史料から考える歴史社会

中国史の史料及びそれに関連する概説・論文を読みながら、史実の読み解き方を学習していきます。具体的には、中国唐代の法律注釈書『唐律疏議』の条文を読み、そこから当時の社会を考えていきます。

外国史学・東洋史②　樋口秀実

〔授業のテーマ〕広いアジアの歴史を研究する。

〔内容〕この演習は、前期の演習Ｂと同じように、中国・朝鮮古代史を除いたアジア史の諸問題を専門的に研究してみたいという学生を対象とします。授業の内容としては、①論文講読、②研究報告、③レポート執筆の３つを行なってもらいます。①については、前期の成果を踏まえ、複数の論文を読んだうえ、それらを比較・分析し、問題点を抽出するという、いわゆる「研究史の整理」に挑戦してもらいます。②については、アジアの歴史的人物、またはアジアに関わった日本や西洋の歴史的人物を １ 人とりあげ、その思想と行動について調査・報告してもらいます。③については、①と②の成果を踏まえ、複数回のレポートを書いてもらいます。①～③の作業を通じて、テーマを設定する、調査・分析を行なう、結論を導きだすといった論文執筆のために必要となる技術を身につけてください。なお、この授業は、皆さんの報告を中心に進められ、教員である私は、皆さんのアドヴァイザーとして脇役に徹します。したがって、授業のなかでいちばん大事すべき要素は、自分の感性にもとづき、自

分の意見を自分の言葉で述べることです。うるさいくらいでかまわないので、積極的に授業に参加し、どんどん発言をしてください。

外国史学・西洋史①　古山正人

〔授業のテーマ〕西洋前近代史研究の本格的導入
〔内容〕史学基礎演習 C 受講者はほぼ西洋前近代史を専攻すると想定されるので、本演習の主眼は西洋前近代史を研究し、卒業論文を作成するためにはどのような方法・技術が必要であるかを理解し、身につけてもらうことにある。受講者は研究対象に応じてその対象地域の言語を習得する必要があり、西洋古代・中世を研究しようとする者はこのほかにギリシア語と（あるいは）ラテン語が欠かせない。従って、英語は当然のこと、辞書を引けば英語以外の言語で書かれた本や論文を読める程度の力をつけることが各自に求められる。
必読参考文献としては『西洋古代史研究入門』（東京大学出版会）、『文献解題 ヨーロッパの成立と発展』（南窓社）、『西洋中世史研究入門』（名古屋大学出版会）を推奨する。また、概説としては服部良久／南川高志／山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史「古代・中世」』ミネルヴァ書房を挙げる。
基本的には、ロビン・オズボン『ギリシアの古代』刀水書房を受講者全員で読み、担当者にはレジュメを作成して、レポートを作成してもらう。レポートに基づいて行う質疑応答も重要である。また西洋史専攻者には英語論文の読解がきわめて重要である。したがって英語文献の講読も重視し、毎回訳文を提出してもらう。受講者の研究テーマに関連する邦語専門論文を用いて、レジュメを作成しレポートしてもらう。

外国史学・西洋史②　大久保桂子

〔授業のテーマ〕西洋近代史基礎演習
〔内容〕西洋近代氏を研究するのに必要な方法を習得し、西洋史の問題意識を育成するための演習。研究史の学び方に習い熟し、日本語論文の学問的な内容を理解する訓練をおこなう。授業は日本語の研究論文の報告、ヒストリオグラフィの研究報告の二本立てとする。出席厳守。

考古学①　阿部昭典

〔授業テーマ〕考古学からみる日本の歴史
〔内容〕考古学は、遺物や遺構、遺跡の分析から、時間的序列や空間的広がりを把握する基礎的研究を踏まえて、当時の社会や文化の特色、人間の行動や思考を探求する学問です。
　この授業では、先史時代の考古資料を中心とする基礎的分析法を学ぶとともに、社会構造や文化などを復元、解釈するための方法論を学びます。以下の課題のなかから選んだテーマを調べて発表を行い、議論する形で授業を進めます。初回の授業時に、各自の発表テーマを決めて、関連文献リストを配布します。
セトルメント、生業、モニュメント、葬送儀礼、信仰、交流、双分制、婚姻、威信財、階層、

戦争、景観、など

考古学②　深澤太郎

〔授業のテーマ〕考古資料論Ⅱ：機能論－遺構・遺物を「作り」・「使い」・「捨てた」痕跡を探る－

〔内容〕考古資料（遺跡・遺物）は、一体どのような目的で作られ、どのように使われたのでしょうか。その意図を解明する糸口は、遺構の様態や、遺物の精緻な観察から窺い知ることができます。そこで当演習では、主に弥生時代・古墳時代の遺跡・遺物を取り上げて、考古資料の意義を明らかにするための研究方法について考えていきます。具体的には、当時の生活道具や、生活・政治・葬送・祭祀の場などを取り扱う予定です。ただし、初回授業時にアンケートを実施しますので、受講者の関心によっては、古代・中世・近世の事例についても触れていこうと思っています。

皆さんには、それぞれ関心のある資料の一つについて、集成作業（図書館に収蔵されている研究論文などの収集や、遺構・遺物図面の収集）に基づく自分だけの資料集作りと、その資料を用いた研究事例をもとに、研究目的・対象資料・分析方法の整合性を確認する発表を行ってもらいます。なお、発表の際には、本学博物館の収蔵する実物資料も手に取りながら、資料に対する理解を深めていくことにしましょう。

地域文化と景観①　吉田敏弘

〔授業のテーマ〕伝統的景観と生態系を保全する

〔内容〕次第に失われつつある伝統的な景観は、過去における社会生活や文化を追体験することができる貴重な歴史遺産です。これらを後世に伝えるために推進されているユネスコ世界遺産や文化庁の伝統的建造物群保存地区・文化的景観など、世界や日本で取り組みが進められている景観保全の事例について、その選定に際して作成された報告書類、研究論文や絵図などの史料、現状を記録した精密な地図類などを駆使して、その景観の価値を明らかにし、後世に伝えるためのさまざまな取り組みについて学びます。受講生は必ず景観保全地区一つを選び、その景観に関するさまざまな資料を収集し、調査した内容についてパワーポイントを用いた発表を行います。発表までの調査については、授業外での個人指導を行います。文献検索法や文献の読解力を身につけるとともに、絵図・古地図や地形図・空中写真、風景画や景観写真などの活用法についても指導します。また、希望者には、岩手での小区画水田保全活動（田植・稲刈ツアー）に参加し、景観保全を実践してもらいます。

地域文化と景観②　林　和生

〔授業のテーマ 〕古地図・絵図と現代地図から読み解く江戸・東京の歴史的景観

〔内容〕過去に生きた人々の活動や考え方は文字史料や古地図・絵図、絵画に記録・表現されています。地図や絵図には、それらが作られた時代の知識や情報が凝縮されて詰め込まれています。古地図や絵図を解読することで、その時代の歴史や社会を読みとることができま

すし、過去の人々が頭の中に描いていた地理像を知ることもできます。
この授業では、近世末に刊行された「江戸切絵図」の読解を切り口に江戸・東京の都市空間の構造や特徴について考えます。受講生は、３２枚構成の尾張屋版江戸切絵図から１枚を担当し、その読解方法を学んだうえで、切絵図と現代図を携えて絵図に描かれた範囲を実際に歩いて調査します。そして現代に残る様々な歴史的景観（土地の凹凸、水路、街路や橋・坂道、街の区画、建築物、神社仏閣、庭園・緑地、大名・武家屋敷のその後など）のなごりを探し、さらに絵図の範囲内での江戸末期～明治～大正～昭和～平成の間の都市景観の変化を調べて資料を作成・配布して教室で順番に報告します。
さらに、休日などを利用して古地図と携えて大学の周辺を一緒に歩いて渋谷の成り立ちを考えたり、東京都内を歩いて様々な歴史的景観を観察する「ブラタモリ」的エクスカーションも行います。